

企業を元気に、情熱系  経営マガジン

2017.10

VOL.
45

●特集

ハイレベルな技術力で 航空・宇宙産業へ

村上精機株式会社 / 株式会社テクノアオヤマ

富士電

- 「継ぐ」極意 ⑤
レーザー焼入れの導入を全て任せられ、軌道に乗せたことが大きな自信に。
富士高周波工業株式会社 後藤 光宏さん
- 堺のすご腕 ② ③
最適の熱交換器をオーダーメイド
境川工業株式会社
- SAKAIの傑作 ①
高い防汚機能や消臭・抗菌機能を誇る光触媒入り塗料「オプティマス」
宝栄産業株式会社

CASF 超精密加工技術を武器に 宇宙産業へも

村上精機株式会社
代表取締役 村上 周三

非常に高いレベルの技術力や品質管理が要求される自動車関連業界。その中で、他に負けないオンリーワンの技術が評価されて活躍している堺のものづくり企業があります。最近では技術に磨きをかけて、宇宙へもステージを広げられました。

価格競争に巻き込まれることのない技術勝負の「ツポンのものづくり」が、この堺でまだまだ健在です。

**金属面を2ミクロン以下まで
人の手で削る「きさげ」技術に強み**

村上精機株式会社はその社名の通り、1948年の創業以来、ミクロン(千分の一mm)やサブミクロン(二万分の一)といった世界で超精密機械部品の製造や組立てに特化した事業を展開してきました。

「量産品ではなく、一品料理のものづくりにこだわってきた」と語る村上周三社長は、「そのために二人ひとりの技術者をスペシャリストにしなければ」と人材育成に注力。毎週



習得が大変困難な「きさげ」技術を、村上精機ではコストも時間もかけて大切に守り伝えている。

月曜日に行われる勉強会では、最新の情報を技術者全員で共有するなど、全社で技術力の底上げを図っています。なかでも、同社が誇る「きさげ加工」は、精密機械の滑り面などを高い精度で仕上げるため、機械では難しい平面度2ミクロン以下まで人の手で削り取る技術です。同社には現在、この技術

を持つている技術者が8人。国内では、村上精機のオンリーワン技術と言っても過言ではありません。

このように絶えず磨き続けた高い技術力によって、バブル経済の崩壊で大きな経営危機を迎えた時にも、自動車業界に参入するチャンスを獲得しています。

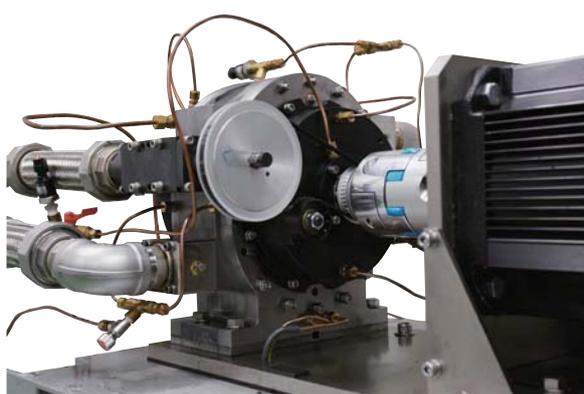
「大阪で協力会社を探しているというところで、大手自動車メーカーから試験的に課題をもらうことができましたが、日頃製造している何ミクロンという精度の部品に比べれば、決して難しいものではなく、自信を持って臨めました」と語る村上社長の言葉通り、その後、その大手自動車メーカーとエンジンの金型製作での取引が始まり、同社の主要得意先となっています。

**高い技術力に寄せられる
宇宙開発事業からの期待に応えて**

しかし、安泰と思えた自動車産業もリーマンショックや東北大地震、そして円高など



同社で活躍するベトナム人の従業員は約20人。熱心な働きぶり、大きな戦力となっている。



初の自社ブランド製品となるロータリーエンジン



精密加工技術を活かして部品作りから組立てを一貫して行っている半導体製造装置。

の影響を受け、自動車メーカーからの売上が10分の1まで激減。さらに、自動車の電動化が加速し、エンジンの需要が減少する見通しから、自動車業界以外で新たな得意先を開拓せねばと思っていたといいます。そこへ、村上精機のホームページを見て声を掛けてきたのが、ロケットの製造を手がける機械メーカーでした。3年前のことです。

「現在は、ロケットのエンジン部分の燃焼バルブやノズルの金型製作を行っています。1000℃を超える燃焼温度に耐えられる耐熱鋼が難削材なので、その点で苦労しましたが、エンジン部分の金型作りは自動車ですぐに実績もありましたし、納めた製品については高く評価いただきました」と村上社長。宇宙開発事業を手がける大手機械メーカーの直々の訪問を受け、今後の協力も求

められたといいます。

これを機会に、同社ではJIS Q 9100(※1)の取得を目指し、今秋に初めての審査を受ける予定です。また将来的にはNASAへのアプローチを視野に、アメリカのNadcap認証(※2)も取得したいと考えています。

※1 航空宇宙・防衛産業において製品サービスの安全性を確保し信頼性を向上させるためのマネジメントシステム規格

※2 国際航空宇宙産業における特殊工程や製品に対する国際的な認証制度

低圧の水蒸気でも発電できる ロータリーエンジンを自社開発

最近では、初めての自社ブランド製品として、これまで回収が難しいとされた200℃以下の低温廃熱を再利用し、さらには低圧の少ない水蒸気でも発電できる「ロータリーエンジン発電システム」の開発に成功。大阪府立大学と、木質バイオマス蒸気ボイラー技術を持つ株式会社イクロスとの共同開発で、木のクズでもあれば、どこでも発電できるバイオマス蒸気ボイラーの発売を開始しています。廃棄処分にかかる農業残渣物の活用も考えられ、今後に期待されています。

「新しい、難しい仕事ほど燃えるんですよ」。静かな語り口ながら、村上社長の言葉からは同社の技術力に対する並々ならぬ自信が感じられました。いつかは、精密加工技術の先進国であるドイツやスウェーデン、スイスの企業とも仕事をしてみたい、そして自社

の技術のレベルを計ってみたいとも語っています。

コスト削減の煽りなどから、大手メーカーでも熟練の技術者が少なくなりつつある今日、同社の技術力への期待が高まり、より高付加価値な仕事に特化することを考えられています。

村上精機株式会社

代表者名/代表取締役 村上 周三
 本社/堺市堺区山本町5-97-3
 TEL/072-232-5693
 設立/1948年創業 1959年設立
 資本金/2,200万円
 従業員数/40名
 事業内容/精密機器部品の製造・加工・組立
<http://www.murakamiseiki.co.jp/>



CASE

部品供給装置ひと筋に 自動車産業に貢献

発明好きの創業者が考案した
フィーダーが大ヒット

株式会社テクノアオヤマは、1969年の創業からボルトやナットを指定の位置に供給するフィーダーの開発・製造を行っている専門メーカーです。フィーダー開発のきっかけは、若いころから発明好きだったという創業者の青山好高会長が、自動車の部品メーカーに勤めていた時に、部品を自動的に供給する装置があれば生産性が上がるはずと思いついたことだったとか。リスクを恐れて製品化に踏み切れなかった勤務先の応援を受け起業。今日につながるフィーダーの製品化を実現しました。創業当時は量産できる機械もないなか、注文が相次ぎ、生産が間に合わないほどだったといえます。

それから約半世紀、フィーダーひと筋に事業を展開してきたことについて、青山省司社長は「ニッチな領域ですが、他社に絶対に負けない守るべき城だと考えています。ナットといつても多種多様な形状、サイズがあ



精密部品の削り出し。同社の精度の高いものづくりこそが、得意先企業の大きな信頼につながっている。

り、生産ラインもお得意先企業ことに異なりますから、それに合わせてきめ細かくカスタマイズできるのも、フィーダーに特化して技術を磨いてきたからこそ」と語っています。

株式会社テクノアオヤマ

代表取締役 青山 省司

す。自社の強みを深堀りし、優位性を確保するというのが、同社の経営戦略のようです。

独自に磨いた技術開発力で
自動車業界のパートナー企業に

過去に中小企業庁長官賞や文部科学大臣賞、大阪府発明功績者賞など、数々の賞を受賞していることが物語るように、テクノアオヤマのものづくりは、その発想力、開発力の高さに驚かされます。例えば、1987年に独自に開発した、磁力を利用してナットやボルトを正確に供給する「マグネット・レシプロ方式」や、エアでチューブの中を瞬時にナットが飛んで供給される「エアースケープ式ナットフィーダー」は生産効率を大幅に向上しました。0.65mm以下の薄鋼板にも電気溶接のできるスタッドボルトフィーダーは、プレス鋼板へのボルト溶接の高速化



裏返ることなく正確にナットを供給する「エアースケープ式ナットフィーダー」



国際特許製品である「スタッドボルトフィーダー」



指定した本数のボルトを確実に取り出せる「ボルト定量取出し装置」



丹念に精度をチェック。真摯なものづくりの姿勢から、自社製品への揺るぎない自信が生まれている。

と品質向上を実現したとして、自動車メーカー各社が採用しています。

こうした技術開発について、「常にお得意先の、特に現場の声に耳を傾け、少しの不満でもあれば、それを解決するために技術を磨き、製品をブラッシュアップしてきました。今や世界に通用する、Kaizen(改善)の積み重ねですね。お客様に育てていただいたようなものです」と話す青山社長。主要得意先である国内最大手自動車メーカーの国内工場には毎週、北米、欧州、アジアなどの海外工場にも毎年、足を運んで現場を見て回っているほか、機会があれば、海外の自動車メーカーの工場も見学しているといいます。

「自動車メーカーと外部協力会社の関係については世の中で厳しく見られることもあります。パートナーとして認められる

と、これからの新製品開発の方向性を先に伺うことができたり、現場で課題となっていくことの相談をいただいたり、海外15カ国で特許を取得する時にも力になっていただいたりと、共に歩いているという姿勢で温かくサポートしていただけることが多いですね」と青山社長。それは同社が真摯に、必要とされる質の高い技術を磨き続けてきたからだといえるでしょう。

安全、品質、コスト削減の徹底追求で誇るべき日本のものづくりを再び

自動車産業のものづくりで求められるのは、第一に安全の確保、品質、コスト、そしてスピードです。一つのラインで1秒縮めたいというオーダーが出たこともあったとか。それも年間にすれば、1ライン数百台の増産につながります。テクノアオヤマは、それをフィーターという設備で貢献すべく、新たな技術を開発し、製品化してきました。「プライベートで妻の買い物に付き合っても、無駄な動線が気になるほど、日々、いかに安全な製品を無駄なく効率的に生産できるかということが頭から離れませんね」と苦笑いする青山社長。しかし、この海外のどこも真似できない高度な生産方式こそが、日本のものづくりの真骨頂だと語っています。

最近ではロケットの製造にも関わっているテクノアオヤマ。今後、海外市場への参入を目指す日本の宇宙開発事業のなかで、同社が自動車産業で培ったノウハウにも大きな期

待が寄せられることでしょう。

「ロケットばかりではないですよ。安全性や品質管理、コストの削減などを徹底して追求してきた弊社の製品は、海外との競争力を高め、日本のものづくりを再び盛り上げるのに広い業界、業種で必ず貢献できると信じています」と、青山社長は力強く語っていました。



株式会社テクノアオヤマ

代表者名/代表取締役 青山 省司
 本社/堺市中区深阪4-15-12
 TEL/072-234-3320
 設立/1969年創業 1983年設立
 資本金/1,000万円
 従業員数/25名
 事業内容/スタッドボルトフィーダー、ボルトフィーダー、ナットフィーダーの開発・製造・販売、各種小物部品の自動供給装置の製造・販売
<http://www.t-aoyama.co.jp>

「継ぐ」 極意

専務取締役
後藤 光宏さん

家業を継ぐことは全く頭になかったという後藤光宏専務が、その覚悟を決めたのは、社会人1年生の時に出会った中小企業の経営者たちのさまざまな声だったそうです。これまで何んも自由なくやってこられたのは、会社の従業員や両親に支えられてのことであり、自分に会社を存続させる責任があることに改めて気づいたのだと言います。2004年に入社、2006年に専務取締役に就任。後藤貞社長は「対外的にはもちろん、本人にも経営者としての自覚を早く持つて欲しかったから」と語っています。入社まもなく、ISO9001の取得に向けて工場内のルールを強硬に変えていくなかで、従業員と衝突することも少なくなかったと語る後藤専務。「未熟だったんですね。まだ自分に自信がないから、強がっていました」。そうしたなか、後藤専務に転機が訪れます。初めて参加したという大阪産業技術研究所の成果発表会で出会った「レーザー焼入れ技術」。「情報を集めたり、試作品を展示会に出品したりするなかで、これはいけると確信を持ち、本格的に導入することを決めました」。設備の導入から技術者の育成、営業と全てを後藤専務が一人で仕切り、軌道に乗せました。今では、レーザー焼入れによる売上が全体の約40%を占めるまでに成長しています。これが大きな自信になったと語る後藤専務。「お金は出すけれど、口は出さない」と任じた社長の、後継者育成術が成功したといえます。

レーザー焼入れの導入を全て任せられ、
軌道に乗せたことが大きな自信に。



富士高周波工業株式会社

本社 / 堺市堺区遠里小野町2-3-15 TEL / 072-229-0230

1958年創業の金属熱処理専門の企業。創業以来、高周波焼入れを行っていたが、2008年からレーザー焼入れを本格導入。歪みが少なく、工程が短縮できることから、自動車メーカー各社の開発部門との取引が増えたという。
<http://www.fuji-koushuha.co.jp/>



事業主の皆さまへ ～福利厚生充実を考えるなら今がチャンス!～

SCKサービスセンターは、堺市内の事業所で働く皆さまに、大企業並みの福利厚生サービスの提供を目的に、堺市が中心となり堺商工会議所ならびに各関係団体の協力のもとに設立された公益財団法人です。

慶弔給付(各種お祝金・お見舞金など)、健康管理(健康診断・人間ドック補助など)、余暇活動(レジャー施設・温泉・グルメの割引やゴルフ・宿泊補助など)の他、財形貯蓄の事務代行、中退共の加入あっせん業務など、多彩な福利厚生サービスを月会費おひとり700円でご提供しています。

ただいま会員拡大キャンペーン実施中。11月15日までの期間中なら通常おひとり500円の入会金が全員分無料となります。ぜひこの機会にご入会ください。



公益財団法人堺市勤労者福祉サービスセンター(略称:SCKサービスセンター)

〒590-0014 堺市堺区田出井町2-1(サンスクエア堺内)

TEL 072-221-6700 / FAX 072-223-7557

E-mail kousei@sck.or.jp / HP <http://www.sck.or.jp/>



いい職場!
いい制度!
いい笑顔!



SCKキャラクター
エッシーくん

堺線香まつり

日時:平成29年11月11日(土)、12日(日) 10:00~16:00

場所:堺市産業振興センター(メイドインさかいフェア会場内)

メイドインさかいフェア2017に合わせて開催される堺線香のイベントです。

中でも子ども達による線香作り体験が大人気で、作業後には「キッズ伝統工芸士」としての認定書をいただき、線香を持ち帰ることができます。また、線香つかみとりや良質な線香を割引価格で購入することができるのも魅力です。



※以前の堺線香まつりの様子

お問合せ

TEL 072-233-4913(堺線香工業協同組合)

堺市中小企業融資制度のご案内

◎年末に向けて資金が必要な方へ!!～堺市経営安定特別資金～

経営環境が厳しい中、売上高の減少などにより資金調達が困難な市内中小企業者を対象とした融資です。なお、年内に資金の貸し付けを希望する方は、11月中旬までに申し込んでください。

融資条件

- 融資限度額=5,000万円 ○金利=年1.3% ○融資期間=運転資金・設備資金10年以内
 - 信用保証料=年0.90%以下(製造業の方が事業承継資金として利用される場合は堺市が全額負担)
- ※申込には不動産などの担保が必要になるほか、対象となる業種など一定の要件があります。

その他、創業のための資金や設備投資のための資金などの融資(いずれも担保が必要)もありますので、堺市のホームページをご覧になるか、堺市産業振興センターまでお問い合わせください。

お問合せ・申込先

公益財団法人堺市産業振興センター 金融支援課

TEL 072-255-8484 / (融資お客様専用フリーダイヤル) 0120-072-232

堺市HPアドレス <http://www.city.sakai.lg.jp/> から「堺市中小企業融資制度」で検索してください

新理事長(利國 信行)の就任ご挨拶について



公益財団法人
堺市産業振興センター
理事長 利國 信行

中小企業を全力で応援し、元気な堺をめざします

このたび平成29年6月27日開催の理事会におきまして、理事長を拝命いたしました。当センターは、堺市の総合的な中小企業支援拠点として、地域経済の活性化に向けた重要な役割を担っており、責任の重さを痛感しておりますが、使命を全うすべく、力の限り取り組んで参る所存でございます。

国の経済財政政策などの各種効果もあって、経済状況は穏やかな回復基調が続いております。このような中、本市中小企業の業況におきましては、持ち直しの動きを示しているものの、製造業においては、需要の停滞や製品ニーズの変化への対応、労働力不足など経営上の問題や国際経済の先行きの不透明などから、依然として厳しい状況もございます。

当センターといたしましては、現場主義を貫き、中小企業の経営支援ニーズの的確な把握のもと、ものづくりを中心とした中小企業の競争力強化や取引拡大の支援のため、様々な経営支援サービスを提供するとともに、中小企業の資金調達を支援することにより、経営の安定化にも貢献してまいります。また、堺の誇る伝統産業の持続的な発展に向けて、伝統製品の魅力を国内外に発信してまいります。

市内の中小企業を全力で応援し、元気な堺をめざして取り組んでまいりますので、皆様には、今後ともより一層のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

堺市産業振興センターのコーディネーターのご紹介

堺市産業振興センターでは、中小企業の皆様の経営課題の解決を、大手企業や技術支援機関の経験豊富なOBがコーディネーターとしてお手伝いします。そこで今回は、堺市産業振興センターの新たな仲間として加わったコーディネーターをご紹介します(総数7名)。

鈴木 直樹(すずき なおき)

- 〔専門分野〕 表面技術(プラズマを応用した成膜・改質・洗浄、表面分析、インクジェット吐出・塗布技術など) 半導体、実装、有機EL、冷熱システム分野を経験
- 〔資格〕 技術士(金属部門)
- 〔一言〕 どのようなことでもお気軽にご相談ください



中小企業を
全力応援

公益財団法人
堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

さかいIPCプレス デジタルブック配信開始!

無料アプリ「カタログポケット」をインストールすると、スマートフォンやタブレットで簡単に閲覧できます。

iOS版
ダウンロード



便利な機能がいっぱい!

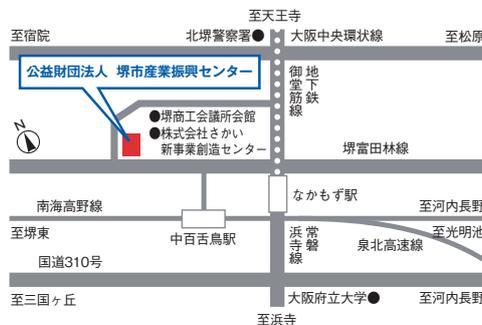
自動翻訳 本文音声読上げ

文字ポップアップ機能

※ブラウザ版は音声読み上げには対応していません。



Android版
ダウンロード



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m◎地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5
TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200
<http://www.sakai-ipc.jp/>

次代につなぐ 堺の伝統産業 ⑤

「昆布」

昆布の産地・北海道から遠く離れた堺で、なぜおぼろ昆布などの昆布加工品が盛んに作られるようになったのでしょうか。今日まで伝えられてきた関西が誇る食文化が、堺の歴史と文化が交錯したなかで生まれてきたことを教えていただきました。

北前船で届く良質の昆布に、堺の優れた刃物づくりの技が相まって。

江戸時代の中期から末期にかけ、北海道産の質の高い昆布は、北前船の西廻り航路で日本海側を通り、ぐるりと下関を回って、終着地・堺に届けられていました。その昆布をすいて「おぼろ昆布」に加工することは、この堺で始まったといいます。堺昆布加工業協同組合の中野盛正理事長は「それはやはり、堺が優れた刃物の産地だったからでしょう。おぼろ昆布をすく“アキタ”と呼ばれる特殊な刃物は堺独自のもので、昆布の表面をすいた後に残る“白板昆布”は、バッテリーの材料となりました。関西でおなじみのおぼろ昆布やバッテリーといった食文化は、堺の昆布と刃物によって生み出されたんですね」と語っています。



▲酢漬けた昆布を、おおよその大きさに揃える「荒切り」。作業には専用の包丁が使われている。



▲北海道の稚内や利尻、日高など産地ごとの昆布の特徴を活かすよう、メーカーごとに仕入れている昆布の種類も異なっている。

ヘルシーな食品としての昆布の新たな魅力、需要の掘り起こしを。

堺の昆布加工業の最盛期は大正時代から昭和初期にかけてのことで、150軒を超える加工業者があったといいます。中野理事長の母親が奈良から嫁いできた時に、あまりの昆布加工業者の多さに驚いたのだとか。それが今では、組合員数も8社に。「原料の昆布の生産量が20数年前と比べて半減し、それにもなって昆布の価格が高騰しています。一方で、昆布の生産量が激減していることが社会問題にならないほど、昆布をダシとして使ったり昆布巻きなどにして食べられたりすることが減ってきていることも要因ですね。お味噌汁も顆粒ダシ、あるいはダシ入り味噌で作られる時代になっていますから」と中野理事長は話しています。

それでも以前に、あるテレビ番組で、運動不足やストレス、カロリーの過剰摂取を原因として、子どもの糖尿病が増加していることが取り上げられ、専門家が低カロリーの酢昆布をおやつにしてはどうかと話したことから、中野理事長が社長を務める中野物産では、酢昆布製品の生産が間に合わないほど売れたことが1年ほど続いたそうです。ここに、堺の昆布加工品の新たな需要を掘り起こすヒントがあるのかもしれません。

◀今も根強い人気を誇っているロングセラー商品「都こんぶ」。駅売店で売りやすいよう、小さな箱入りとなった。

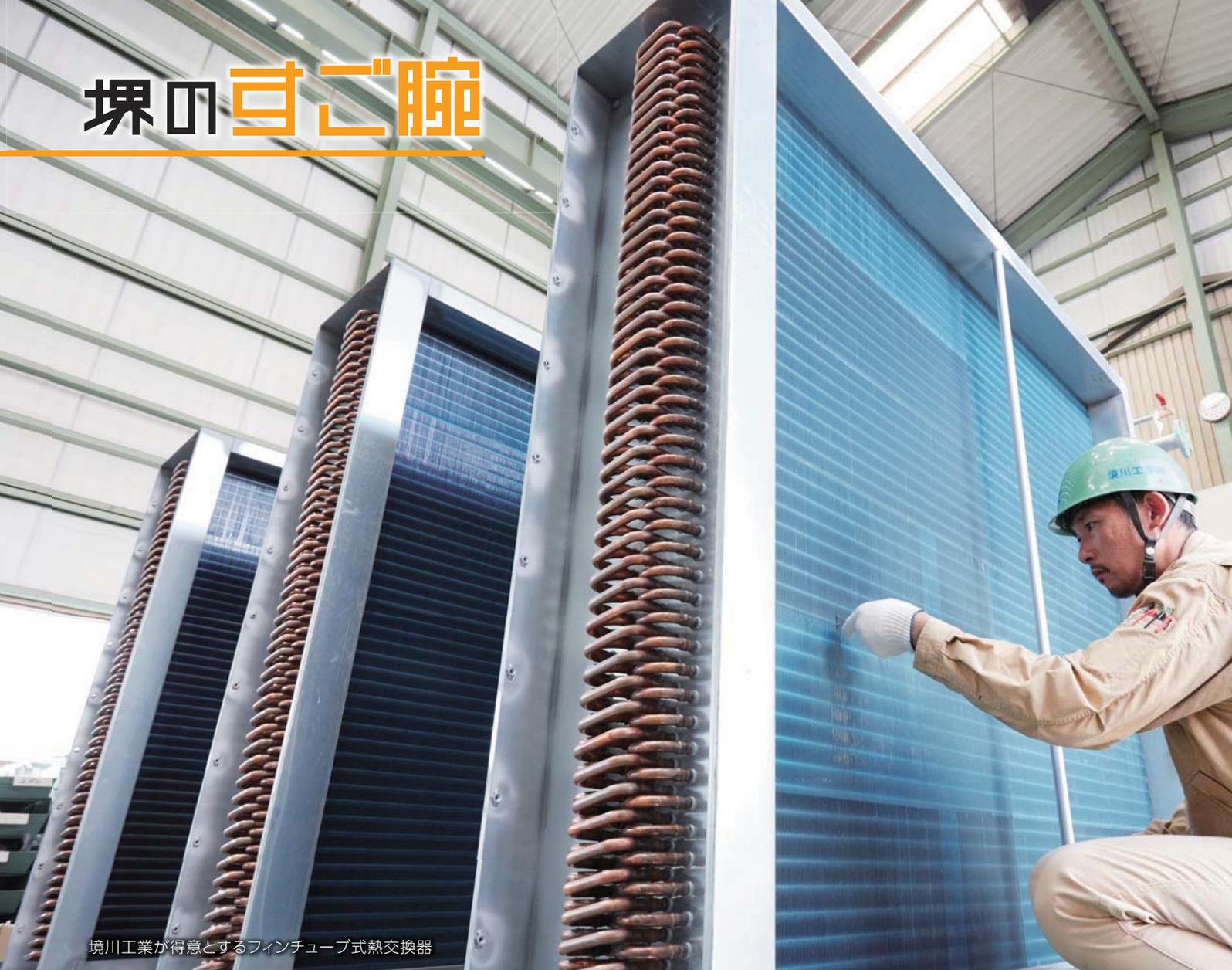


取材協力

中野物産株式会社
堺市堺区大仙中町14-20
☎072-241-9505 (代)
<http://www.nakanobussan.co.jp/>



堺昆布加工業協同組合 理事長
中野 盛正さん



境川工業が得意とするフィンチューブ式熱交換器

最適な熱交換器をオーダーメイド

境川工業株式会社

価格競争に陥らない 産業用のニッチな領域で勝負

エアコンなど私たちの暮らしの身近なところでも使われている熱交換器。専門メーカーである境川工業株式会社も手掛け始めた当初は、学校や病院に備え付けられていた暖房用放熱器などを製造していたそうですが、そうした汎用品は大手メーカーとの価格競争に陥るといことで、産業機械向けに特化。現在は、仕様にあわせて一台からオーダーメ

イドで製造するニッチな事業領域で自社の優位性を確保しています。

「空気の温度を管理しなければならぬところで必要な装置なので、除湿機や空調機、ボイラなどの装置メーカーさんをお得意先としています。コインランドリーなどの業務用洗濯乾燥機や、日本酒や醤油の醸造機にも使われていますね」と眞田博之社長。印象に残っているのは、レーシングカーの空気抵抗を調べる風洞試験のために、縦横5台ずつつないだものを設置したことだとか。自動車関

連では今後、加速する電動化にともない電池の増産が見込まれ、フィルムの製造に欠かせない熱交換器の需要が高まると眞田社長は期待を寄せています。

さまざまな液媒体に対応する フィンチューブ式を主力製品に

専門メーカーとして、各業界での豊富な実績を誇る境川工業。自社の強みについて、眞田社長は「まず、仕様を示されれば、それに最適な発生熱量、構造、



高度な技能が求められる溶接。
溶接士養成プログラムに基づいて、技能の向上と資格取得を進めている

自社内のテスト設備で 性能への信頼を獲得

境川工業の高い技術力を支えているのは、一つには自社で独自に備えているテスト設備です。日頃から細かく試験を重ね、好結果が出れば、提案という段階を踏まずとも製品に反映させておく。それが製品の確かさとなって、得意先企業からの大きな信頼につながっているようです。



ユーザー企業の仕様に応じて、全てオーダーメイドされている

また、同社が得意とする設計や、製造現場においても重視するのは人材育成です。熟練技術者とのマンツーマンで、実地での生きた指導を行い、「本人のモチベーションが上がり、自信にもなるから」と公的な資格取得も積極的にサポートしています。

すでに、得意先企業の装置に載って中国や韓国、台湾で境川工業の熱交換器が活躍していますが、今後は東南アジアや東アジアへの販路開拓、さらには得意先企業のグローバル戦略にあわせてヨーロッパ進出にも対応していきたいと考えています。

「近い将来には、熱交換器を通過するガス体に含まれる溶剤の成分を回収しリサイクルするという環境関連分野でも貢献したい」と眞田社長。地道にコツコツと熱交換器を極めていきたいと語っていました。

耐圧、耐久性を備えた熱交換器を提案できる設計技術力です。何を最優先に考えられるかはお得意先によって異なり、それを早くキャッチし製品で応えることにより、勤のいい会社だなと思っていたことも大切ですね。当社が得意とするフィンチューブ式熱交換器は、表面積が大きく取れるので大容量の気体を効率よく加熱冷却できるということ、さらに蒸気やサーモオイル、冷媒ガスなど、さまざまな液媒体を使えることから、ユーザー企業のどのような既存の装置にも対応できることも特徴です。コストの低減につながるコンパクト化も追求しています」と語っています。

より高効率化を追求して表面積をいかに増やすか、さらには耐食性の高いステンレス素材など材質の研究にも余念がありません。

境川工業株式会社

代表者名／代表取締役 眞田博之
 本社／堺市美原区大保210-1
 TEL／072-361-3085
 設立／1947年創業 1948年設立
 資本金／1,200万円
 従業員数／40名
 事業内容／産業機械用熱交換器および空調用ヒーターの設計、製造
<http://www.sakaigawa.co.jp/>



堺に活気を、ものづくり  応援マガジン

2017.10

VOL.
45

SAKAIの傑作

高い防汚機能や消臭・ 抗菌機能を誇る光触媒入り 塗料「オプティマス」

真っ白な外壁の社屋や住宅、一面の壁だけに濃いブルーの塗られた内装など、宝栄産業が自社開発した光触媒入り高機能塗料「オプティマス」によって、スタイリッシュな建築や空間づくりが実現されています。最近では、建築設計事務所のほか、リフォーム会社やハウスメーカーが自社の提案力を高めることを狙いとして「オプティマス」を採用するケースが増えてきました。

「オプティマス」の特長は、色の再現性の高さばかりでなく、外装については、光触媒が持つ自浄作用によって美観が長く保持できることや、紫外線による劣化を遅らせ塗替え回数を低減できることなどがあり、内装については、空気浄化性能や遮熱効果、抗菌機能の高さで好評価を得ています。最近では、抗菌、空気浄化、消臭効果などをより強化した医療福祉施設向けも発売しています。

よりブランド力を高めるため、今秋より販売代理店制度、認定施工店制度を導入。ライフスタイル提案型製品である「オプティマス」のコンセプトを広くアピールするため、オプティマスハウスやオプティマスホテルへの展開も考えています。中長期的には、数年以内に海外に販売拠点のみならず、製造拠点も置き、やがてはグローバルブランドを確立させたいと構想しています。

宝栄産業株式会社

代表者／高尾 弘美
設立／1985年設立
本社／堺市中区大野芝町94
TEL／072-235-1131
資本金／1,200万円
従業員数／35名
事業内容／耐熱塗料・特殊遮熱断熱塗料の製造・販売
<http://www.optimus.jp/>

